

スタジアム 光で演出 フィリップス、五輪にらみLED

2016/10/10付 | 日本経済新聞 朝刊

オランダ電機大手のフィリップスはイベントに合わせて独自制御で光を演出できる発光ダイオード（LED）照明システムを日本で売り込む。2020年に開催する東京五輪大会に向け、関連イベントでの利用を狙う。スタジアムの機能を高められることから、五輪後も音楽などの需要が見込めると自治体や企業に採用を働きかける。

日本法人のフィリップスライティングジャパン（東京・港）が瞬時に点灯・消灯や調光ができるシステム「アリーナビジョンLED」の販売をこのほど始めた。試合やショーのプログラムに合わせて光をきめ細かく制御できる。

フィリップスは今夏にブラジルで開催したリオデジャネイロ五輪の会場にもLEDシステムを提供するなど、スタジアム向け照明の販売に強い。照明としてのLEDの省エネ性だけでなく、光の演出によって五輪開催後もスタジアムを活用しやすくなることを訴え、日本でも顧客獲得を目指す。



試合やショーの内容に応じ、光を独自制御する（イメージ）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.